

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立大月小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年から英会話学習を実施することで、児童は英語を話してみたいという意欲が高まり、EAAに自ら話しかけたり、英語の歌を口ずさんだりすることで、コミュニケーションをとろうとする姿が見られた。
- ・デジタル教材を真剣に聴いたり観たりすることで、自分の意見をもとうと取り組んでいる。
- ・登校時刻に英語の歌を流すことや、お昼の放送で委員会児童が簡単な英会話を伝えることにより、日常的に英語に触れる機会をもち、英語活動を楽しみにしている。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- 最初はなかなかできなかったリアクションなどが、だんだんレスポンスができるようになってきた。
- ALTやEAAとのやりとりで、何度も繰り返すうちに分かってきて、話したり書いたりすることが楽しくなってきた。
- 英会話学習を行うことで、何をするのか分かってきた児童が増え、英会話学習が定着してきた。

<保護者>

- 第1学年からの英会話学習は、楽しんでいるようだ。楽しさの中でも、英語のコミュニケーションが身につくなら良いと思う。
- 子どもの様子を見てみると、小さいうちから英語を学習することは、苦手意識や抵抗が芽生えてしまうこともあるのではないかと心配していたが、楽しそうに活動しているようなので、英語に慣れる機会となってよかった。
- 第1学年からの英会話学習による、英語のやりとりを重ねることで、英語や外国の国々を身近に感じることができている。

3. 実施の効果及び課題

- 英会話学習に第1学年から取り組んでいることで、英語に親しみをもち、楽しみながら活動に取り組む様子が見られる。
- 話すことだけでなく、リアクションなどを行いながら、EAAとのやりとりを楽しめるようになってきた。
- △英語を聴き取ったり、正しく発音したりすることに、苦手意識を持っている児童もいるので、発音が分かるような工夫を取り入れる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

低学年で慣れ親しんできた単語や文を繰り返し使いながら、定着しつつも語彙がさらに増えていくように意識させる。また、コミュニケーションの楽しさを感じながら活動に取り組めるような、活動の工夫を取り入れていく。

児童が自信をもって英語を活用できるように、発表場面を意図的に設定し、どの子どもチャレンジできることができるようにする。(昼の放送等)